



日本

の源流再発見

和歌の浦

風光明媚な土地と、徳川家の遺産が眠る町



和歌山市にある和歌の浦は、その美しい景観を詠んだ和歌が万葉集にも収められ、和歌の聖地として古来多くの歌人の憧れの地でした。和歌山市は江戸時代には紀州徳川家の城下町として栄え、徳川家ゆかりの建造物も多く残ります。海南市とともに日本遺産「絶景の宝庫 和歌の浦」に認定されています。

File 28 和歌山県和歌山市

和歌の聖地から和歌山へ

和歌山市の南西部に位置する和歌の浦は、歌聖と呼ばれる山部赤人が「若の浦に潮満ちくれば 濁をなみ 葦辺をさして 鶴鳴き渡る」と詠んだように、万葉の時代から景勝地として数多くの歌に詠まれてきました。この歌にもあるように、和歌の浦は古くは「若の浦」と表記されていました。その後、紀貫之が「古今和歌集」を編さんした際、再びこの歌を取り上げたことから、和歌の聖地といわれるようになり、「若」が「和歌」に転じたそうです。和歌の浦を望む「玉津島神社」には、第19代允恭天皇の后で、美しさが衣を通して輝い

たという和歌の名手 衣通姫が祀られています。小野小町も和歌の上達を願って参詣したといわれています。第45代聖武天皇は、この玉津島神社の背後にある奠供山から見える眺望に感動し、「明光浦」と名付けたと伝わっています。

和歌の浦の干潟と外海を隔てる砂州「片男波」は、冒頭に紹介した和歌の「濁をなみ」から名付けられました。現在は片男波公園として整備されており、そこには万葉集関連の資料を集めた「万葉館」があります。万葉館には、古写本や研究書など、万葉時代の



玉津島神社

人々の暮らしぶりを伝える展示、ビデオ映像による万葉集ゆかりの地の紹介コーナー、万葉集に詠まれた風景や歴史的建造物を望めるパノラマギャラリーなどがあります。

豊臣秀吉が戦国時代、紀州攻めの



▲ 和歌山城

1846年天守閣が落雷により焼失。通常は許されない天守の再建が御三家ということで許可され、1850年に再建。1935年天守閣が国宝に指定されますが、1945年に戦災により焼失し、市民の寄付などで1958年に復元されました



▲ 片男波公園 万葉館

万葉集の資料などが展示されています。万葉集4500余首のうち、和歌の浦をはじめとする和歌山の地を詠んだ歌が100首ほどあります



▲ 雑賀崎

海岸近くまで迫る丘陵に家々が張り付くように密集して建ち並び様子が、世界遺産でもあるイタリアの景勝地アマルフィ海岸に似ているといわれています



▲ 不老橋

第10代藩主 徳川治宝(はるとみ)が東照宮の例大祭[和歌祭]の際、徳川家や東照宮の人々を通る御成道(おなりみち)として整備した美しい橋です

際に和歌の浦を遊覧し、北方の岡山(現在の虎伏山)に建てた城を和歌の浦にちなんで和歌山城とし、現在の地名につながっています。和歌山城は、秀吉が弟の秀長に命じて築城し、その後1619年に徳川家康の子 頼宜が入国し、城郭を大改造。連立式天守を持つ紀州徳川家にふさわしい美しい居城となりました。残念ながら当時の城郭は戦災で焼失し、現在は鉄筋コンクリートで再建されています。

和歌山城のある市内中心部より西側、和歌の浦の西端にある漁師町(さいかぎ) 雑賀崎(あま)も、万葉集に「雑賀浦」の「海人の燈火」

とうたわれ、古くから知られる景勝地です。戦国時代、当時の最新兵器である鉄砲を扱い織田信長を苦しめた「雑賀衆」にまつわる言い伝えも残っています。山肌に家々が密集して並ぶ独特の風景が見られ、万葉の時代から続く人々の暮らしが感じられます。

ココに注目

和歌山名産の梅と果物を使ったご当地スイーツ「わかやまポンチ」。South West caféでは厳選した季節のフルーツをたっぷり使用。旬の果実を楽しめます。



日立グループ事業所紹介

今回訪れた和歌山県には株式会社 日立製作所 ヘルスケア和歌山営業所があります。日立では、ヘルスケアを21世紀の社会を支える必要不可欠なインフラと考え、技術開発や関連システム、ソリューション、サービスの提供を通じて、一人ひとりが健康で安心して暮らせる社会の実現に貢献していきます。

株式会社 日立製作所 ヘルスケア和歌山営業所 和歌山県和歌山市三木町中ノ丁16

<https://www.hitachi.co.jp/products/healthcare/>